# 令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立新高小学校の結果

## ～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

| | |
|---|---|
| 区　　名 | 淀川区 |
| 学　校　名 | 大阪市立新高小学校 |
| 学 校 長 名 | 伊藤　忠弘 |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和８年４月に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### １　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### ２　調査内容

(1)　教科に関する調査

・国語

・算数

(2)　質問調査

・児童に対する調査

・学校に対する調査

### ３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童

・大阪市立新高小学校では、第６学年　93名

# 令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立新高小学校の結果概要

本校の平均正答率は、国語科が59.0%、算数科が57.0%であった。国語科は大阪府平均と同ポイントで、全国平均を下回った。一方、算数科は大阪府平均・全国平均を上回った。その結果より、算数科においては、学力の定着が図られていることが分かった。一方、国語科においては、文章や資料から必要な情報を取り出す力は見られるものの、それを根拠として自分の考えを表現する力に課題があることが明らかになった。児童質問紙の結果を本校の運営に関する計画と照らし合わせると、自己肯定感や友人関係、基本的な生活習慣には一定の成果が見られる一方、「学校が楽しい」「話し合いを通して考えを深める」「ICT機器を学習に活用する」という目標については、さらなる取組が必要であることがわかった。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

【国語】
今年度は、「（2）情報の扱い方に関する事項」の項目で、大阪府平均・全国平均を上回った。学校の正答率は65.1%で、大阪府の51.4%、全国の52.3%を上回っており、文章や資料から必要な情報を取り出し、整理する力が身に付いていることが分かった。一方で、「（1）言葉の特徴や使い方に関する事項」「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」では全国平均を下回った。文章を引用し、自分の考えと根拠を区別して書くことや、表現の効果を捉えて説明することに課題が見られる。

【算数】
今年度は、「B 図形」「D データの活用」の項目で、大阪府平均・全国平均を上回った。また、「知識・技能」や選択式・短答式の正答率も全国平均を上回っており、基礎的な知識や図・表から情報を読み取る力について、一定の成果が見られた。一方で、「C 測定」「C 変化と関係」の項目で全国平均を下回り、「思考・判断・表現」や記述式の正答率も全国平均を下回った。数量の関係を図や表に表し、式や答えだけでなく、その理由を言葉で説明することに課題があると考える。

### 質問調査より

「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した児童は約85%で、目標値82%を上回っている。教師が自分のよいところを認めてくれていると感じる児童も多く、児童の自己肯定感を支える関わりが成果につながっていると考えられる。一方、「学校に行くのは楽しい」とする児童は約76%で、目標値84%を下回っている。また、学級の友達との話し合いを通して考えを深めたり、新しい考えに気付いたりできる児童は約72%で、目標値79%には届いていない。今後は、ペアやグループでの話し合いの場を工夫し、互いの考えを聞き、比べ、根拠をもって説明する学習を充実させる必要がある。朝食を毎日食べる児童は80%、就寝時刻がほぼ決まっている児童は約83%、起床時刻がほぼ決まっている児童は約87%であり、生活習慣はおおむね整っている。授業で学習者用端末を週3回以上使用する児童を70%以上にする目標に対して、質問紙では該当する回答が約46%と読み取れ、端末活用の機会をさらに広げる必要がある。

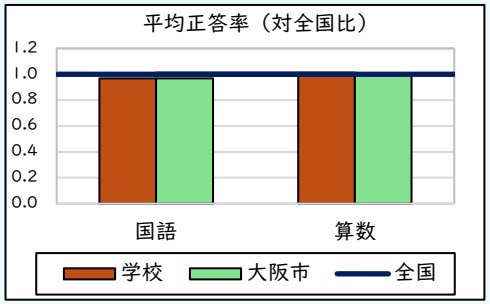
## 今後の取組（アクションプラン）

国語科では、読書活動や説明文の読解において、本文や資料から根拠を抜き出し、考えと理由を区別して書く活動を継続する。また、話合い後の振り返りや相互評価を取り入れ、相手に伝わる表現を工夫する力を育てていく。算数科では、測定や割合、変化と関係の学習において、図や表、数直線を用いて数量の関係を可視化し、式・答え・理由を一体的に説明する授業を進めていく。ペア学習やグループ学習を取り入れ、児童が互いの考えを説明し合う場面を設けるとともに、つまずきのある児童には個別の支援を行っていく。今後も、基礎・基本の定着と主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組んでいく。また、今後は、授業研究や研修を通して教員の授業力・指導力の向上を図り、学びの見通しや学習過程を大切にした授業改善を進める。そして、一人一台端末は、児童が自分のペースで学習したり、考えを共有したりするために活用し、学習内容や学習方法を選択できる場面を設ける。

# 令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要

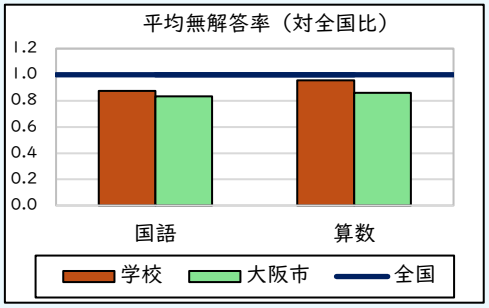
## 平均正答率（%）

| | 国語 | 算数 |
|---|---|---|
| 学校 | 59 | 57 |
| 大阪市 | 59 | 56 |
| 全国 | 60.9 | 56.4 |



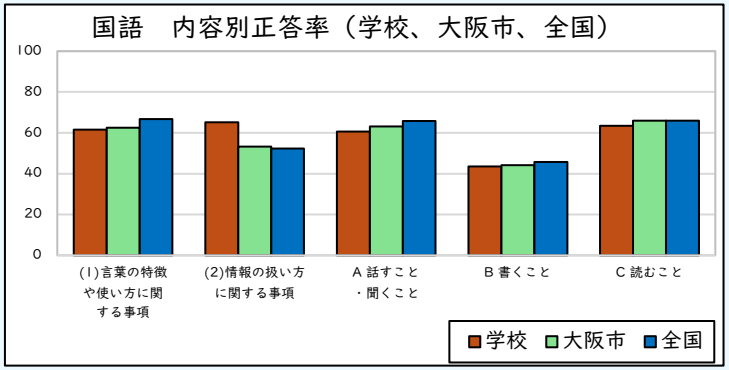

## 平均無解答率（%）

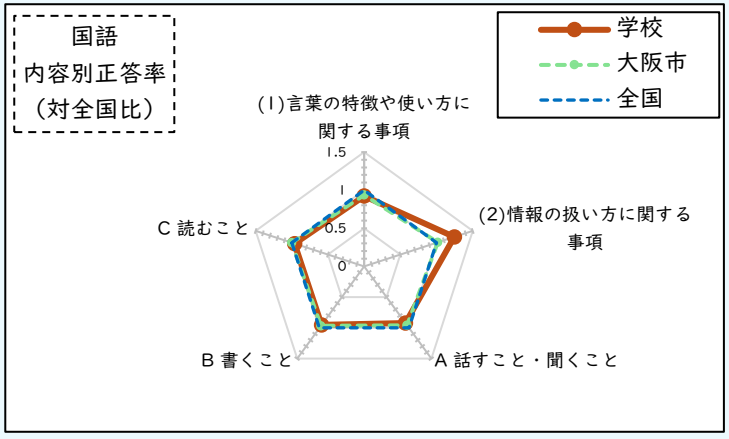
| | 国語 | 算数 |
|---|---|---|
| 学校 | 3.0 | 3.1 |
| 大阪市 | 2.8 | 2.8 |
| 全国 | 3.4 | 3.2 |




## 【国語】内容別正答率

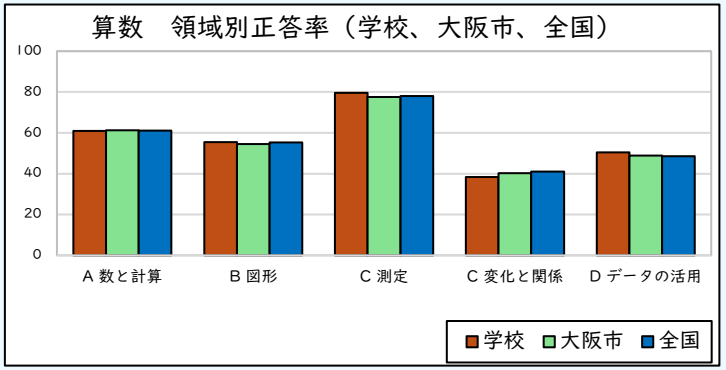
| 学習指導要領の内容 | 対象問題数（問） | 平均正答率（%） 学校 | 大阪市 | 全国 |
|---|---|---|---|---|
| (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 4 | 61.6 | 62.5 | 66.8 |
| (2)情報の扱い方に関する事項 | 2 | 65.1 | 53.2 | 52.3 |
| (3)我が国の言語文化に関する事項 | 0 | - | - | - |
| A 話すこと・聞くこと | 3 | 60.6 | 63.1 | 65.8 |
| B 書くこと | 2 | 43.5 | 44.2 | 45.7 |
| C 読むこと | 2 | 63.4 | 66.0 | 65.9 |

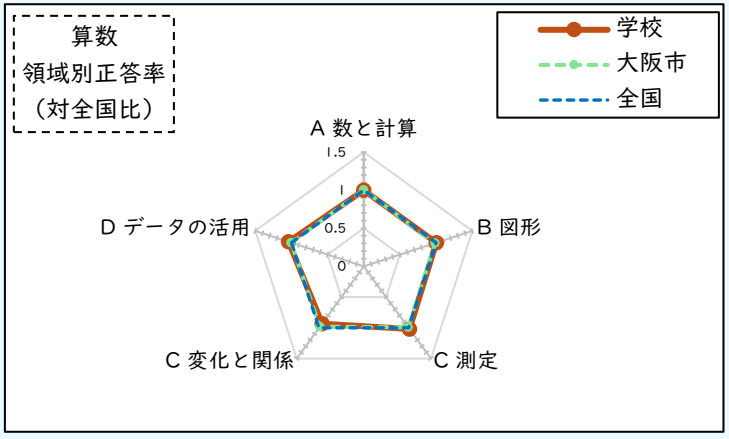



## 【算数】領域別正答率

| 学習指導要領の領域 | 対象問題数（問） | 平均正答率（%） 学校 | 大阪市 | 全国 |
|---|---|---|---|---|
| A 数と計算 | 8 | 61.0 | 61.2 | 61.1 |
| B 図形 | 4 | 55.4 | 54.5 | 55.3 |
| C 測定 | 1 | 79.6 | 77.5 | 78.1 |
| C 変化と関係 | 3 | 38.4 | 40.3 | 41.1 |
| D データの活用 | 4 | 50.5 | 48.8 | 48.6 |



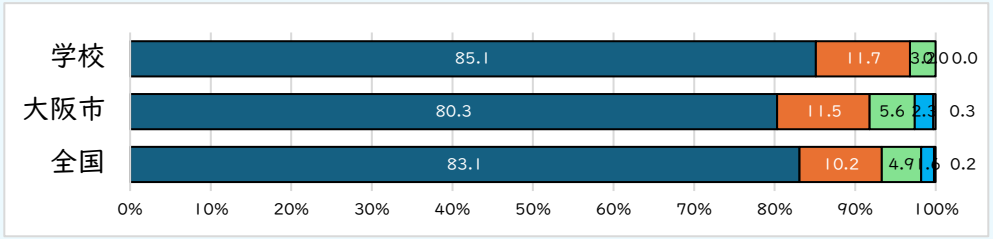



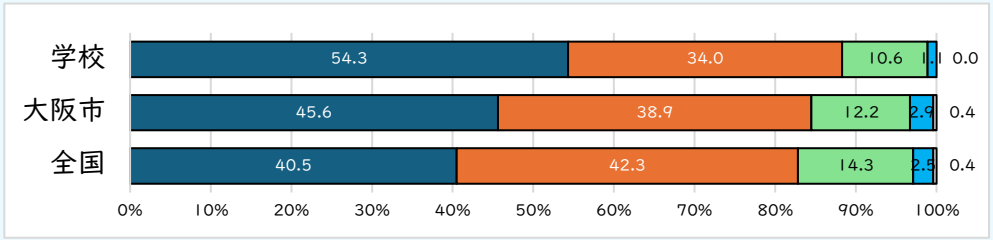
# 令和８年度　全国学力・学習状況調査　児童質問調査より

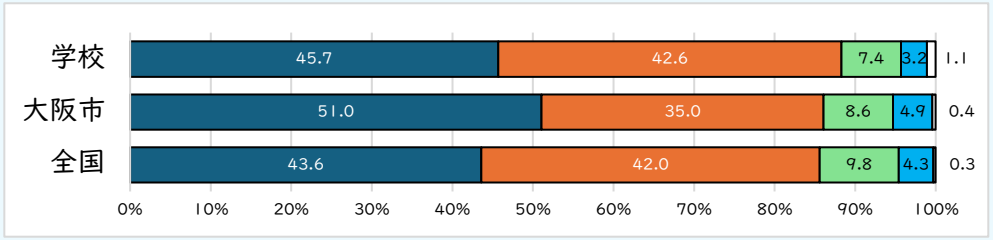
1 2 3 4 5 6 7 その他・無回答

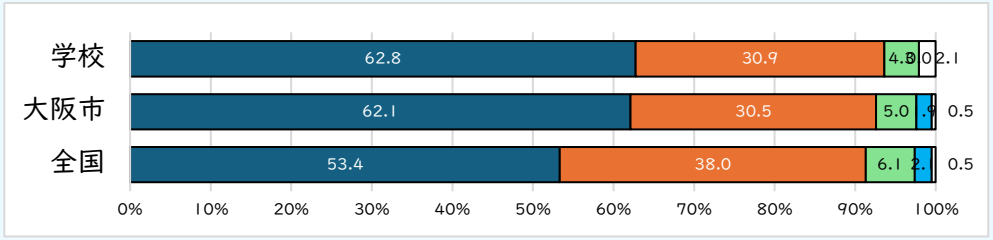
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

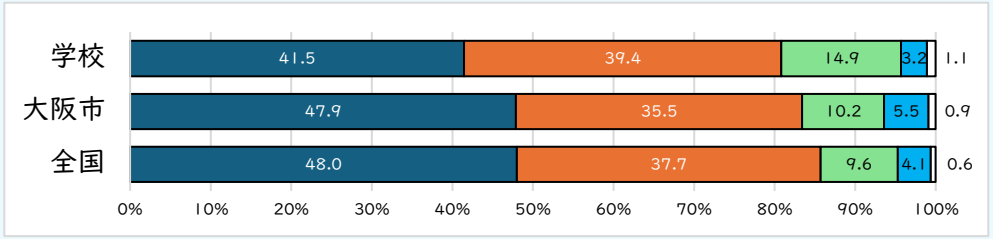
| 質問番号 | 質問事項 |
|---|---|
| （1） | 朝食を毎日食べていますか |
| （2） | 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか |
| （8） | 自分には、よいところがあると思いますか |
| （9） | 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか |
| （15） | 学校に行くのは楽しいと思いますか |




1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない